

いつにちは 健保組合です！

「鈴木運送株」

の巻

事業所訪問の第一七回目にお邪魔することになったのは、千葉市美浜区に所在する鈴木運送株式会社でした。

三月七日に私たちは取材に伺いましたが、暦のうえでは、昨日が啓蟄—冬眠していた虫がはい出るという意のようですが、私たち人間もこのころから冬の厚いコートを脱いで身軽になり、精力的に活動しようとする、まさに冬眠から覚める時期なのでしょう。

ところで話は変わりますが、一月に阪神地区を襲った大震災の爪痕は、計り知れないものとなり、亡くなった方々の数も五、四〇〇人を超えてしまいました。被害の詳細が明らかになればなるほど地震の恐ろしさを思い知らされたのは、皆さんも同様でしょう。

この惨事を対岸の火事と受け止めに、亡くなった方々のご冥福をお

祈りするとともに、被災された皆さん方の一日も早い復興を心より願います。また、取材の話題のなかでもこの震災について触れられ、今回取材させていただいた鈴木運送は食料の運搬に寄与されたそうですが、私

たちも微力ながらできる範囲内で応援しよう、事務局一同確認し合っただけでした。

「**検診のデータにより、自身のからだを知ることから**」

今日の目的地は、健保事務所の目と鼻の先にありました。数々のイベントで、皆さんご存じの幕張メッセの近隣にあり、国道三五七号、東関東自動車道にも非常にアクセスのよい所に明るい社屋を構えておられました。

事務局は、車を走らせ目的地に着したところ、すでに鈴木常務が外で私たちをお待ちになって出迎えら

れ、応接室に案内してくださいました。同氏は、私たちの健康保険組合の議員をされているとともに、健康管理事業等推進委員も兼任され、健保情勢には非常に精通されておられる方です。申し遅れましたが、氏は推進委員会の指導宣伝部に所属しておられますので、今回は同部会からの取材への同席はご遠慮申上げました。

鈴木社長ならびに鈴木専務が、ご多忙のなか同席くださり、取材が始まりました。

恒例により、事務局より組合現況についてご報告すると、健保財政の厳しさから端を発して保険制度についての話題に発展しました。

「健保財政を圧迫している要因は、二〇二〇年には六五歳以上の全人口に占める割合が、二五%を超えると推計されている高齢化に起因した老人医療費の増高であり、これを抑制するためには適正な医療体系の強化とともに、本間に医療の必要がない老人が医療機関に入りびたりにならないように老人の意識の改革をしなければならぬ」と鈴木社長はおっしゃられました。さらにその意識改革の一端を、各企業も担うべきだ、と続けられま



右より鈴木滋専務、鈴木富雄社長、鈴木喜光常務

した。

その実践的裏付けとして、同社は、健康診断はもちろんのこと、健保の実施している各種検診事業への積極的参加を従業員の方々に呼びかけておられます。強制的というよりも、検診に行きやすい環境を企業トップがつくることによって、その効果を上げておられるようです。つまり、「検診で得たデータを基に、自分の身体を知ることが意識革命の第一歩」と鈴木常務はこの話題を締めくくられました。若いころから身につけたからだのメンテナンスが、きつと将来開花してくれるものと私たちは思いました。

「**生き物である製品を大切に、ドライバー教育の徹底**」

話題は、同社の歴史や営業内容に

移りました。鈴木運送は昭和二十七年が設立とのこと、その後昭和三十

七年に、運送業の認可を受け規模を拡張して、一〇年程前にこの地に本拠を構えられたとのこと、設立当時は、乳牛の飼料の運搬からスタートしたそうです。これは先々代



が耕作していた物資を運んでおられたそうですが、時代の趨勢により新しい分野へ進出し、現在は全国的にマーケットをもつ

山崎製パンの製品の運送オンリーということです。

運ぶ荷物がいわば生き物なので、時間的なりミットがあり配送のリスクは大きいということなのですが、ドライバー教育を徹底し、製品を大切にすることを運転マナーを身につけることに重点をおかれているとのこと。山崎製パンと太いパイプをもつ鈴木社長ですが、ここにたどり着くまでにはかなりの苦勞をされたようです。しかし、前述の製品を大切に扱うことには、絶大な自信をもっておられ、ある製品を数社で配送したところ、同社だけは一つの破損も出さなかつたことで信頼を得た、というエピソードを語ってくださいました。ここに同氏の経営方

針が確立したのでしよう。

専務、常務はまだお若いので健康そのものという感じですが、鈴木社長も穏やかな笑顔を絶やさず話されるお姿から、いたって健康とお見受けしたところ、氏は「病気はたくさんもっている」とおっしゃられたので、「何か気をつけていることは」とお聞きすると「なにもせず自然体で」ということでした。ただ、食事には気をつけているということなので、その裏側にはご苦勞されている奥様あり！と推察申し上げました。お二人の後継者を得て順風満帆のこととは存じますが、まだまだ社長ご子息もきつと頼りにされていること、健康への投資も忘れないよう、

私たちは僥倖ながら助言させていたできました。

こうして、あつという間に時間が経過してしまいました。品物を愛し、人を愛する同社がますます発展されていくことを祈念申し上げ、取材を終えました。

貴重な時間を割いて取材にご協力いただきありがとうございます。

★ ★ ★

さあ、本誌が皆さんのお手元に届くころは、もう四月です。きつと桜が満開の時期でしょう。幹事さん、今年はどうなお花見を企画しましたか？ あまり羽目をはずさないようにお願いしますネ！……。それから阪神地区にも、素晴らしい桜が咲きますように！